
 <p>市長 古川雅典</p>	<p>岐阜県</p> <p>た じ み し</p> <h1>多治見市</h1> <p>まるごと元気・多治見</p>  <p>市 章</p>	<p>【データ】※平成29年4月1日現在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口：112,145人 ・世帯数：45,824世帯 ・面積：91.25km² ・市の花：キキョウ・ツツジ ・市の木：シデコブシ・イチョウ <p>【連絡先】</p> <p>市民健康部保健センター</p> <p>電 話：0572-25-3725</p> <p>F A X：0572-25-8866</p>
--	--	---

◆ 多治見市の紹介

多治見市は、昭和15年に誕生しました。古くから陶磁器やタイルなど美濃焼の産地として発展し、昭和50年代の丘陵部の宅地開発や平成18年の土岐郡笠原町との合併などにより、現在では11万2千人を超える岐阜県東濃地方の中核都市となりました。

開山700年の虎渓山永保寺、設立80年の神言修道院、美濃陶芸の人間国宝を4人輩出するなど、長い歴史に裏打ちされた人を育てる文化を礎に、子育て環境、教育環境、安心して暮らせる地域づくり、コンパクトシティ、企業誘致などの政策を充実し「まるごと元気！多治見」をスローガンに、まちづくりを進めています。



げんきなまち（創作文字）



多治見市のマスコットキャラクター
うながっぱ

◆ 健康都市の取り組み

平成13年度、健康増進法に基づく健康づくり計画として、健康寿命の延伸と生活の質の向上を基本方針とした「たじみ健康ハッピープラン」を策定し、市民が主体的に健康づくりに取り組めるよう「食生活」「運動」「喫煙対策」の3分野を優先課題として生活習慣の改善のための事業を推進しました。平成15年度には、“21世紀に健康でいきいきと幸せに暮らすことができるまち”を願って、「たじみ健康都市」を宣言しました。

さらに、平成17年7月にWHO健康都市連合メンバーに加盟し、国際基準の健康づくり運動にも積極的に取り組んでいます。

【たじみ健康都市宣言】

たじみの豊かな自然と活力のある地域のもと、心身ともに健やかで充実した生活を続けられることが私たちの願いです。多治見市民がお互いに手を携えて「自らの健康は自らの手でつくる」を基本として、生涯にわたる健康づくりを進めます。

私たちは、21世紀に「健康でいきいきと幸せに暮らすことができるまち」を願い、「健康都市たじみ」をここに宣言しました。

一、食生活に気を配り、生活習慣の改善に取り組みます。

一、日常生活に運動を取り入れ、活動的なライフスタイルを身に付けます。

一、喫煙の害に対する知識を深め、健康への影響を若い世代に伝え、快適な環境づくりを目指します。

一、休養を自分にあった方法で取り入れ、こころいきいきとした生活を目指します。

【たじみ健康ハッピープラン（第2次）の推進】

平成24年度に第2次たじみ健康ハッピープランを策定し、「市民が健康でいきいきと幸せに暮らすことができるまちづくり」を基本理念としプランを推進しています。

健康寿命の延伸と一次予防に重点を置き、「食生活」「運動」「喫煙対策」の3分野を優先課題として目標を設定しています。

第2次プランの大きな特徴として、行政をはじめ、医師会等の関係機関、民間企業、市民団体や自治組織など35団体から総勢60名で策定会議を組織し、策定したことが挙げられます。また、第2次プランの推進にあたっては、策定会議のメンバーが推進主体となって取り組むことにより、地域のソーシャルキャピタルを重視し、多様な主体が相互に連携して健康づくりに関する社会環境整備を目指します。



第2次たじみ健康ハッピープラン

【多治見・元気・高齢者「TGK48プロジェクト」】

平成26年度から、元気な高齢者が健康づくりの牽引役として「人の元気・まちの元気」を創出するTGK48プロジェクトを始動しました。TGKは、多治見（Tajimi）・元気（Genki）・高齢者（Koureisya）の頭文字。平均年齢69歳の元気な高齢者63名による「TGK48」というダンスチームが、イベント等でヒップホップダンスパフォーマンスを披露しています。TGK48メンバーの体力レベルは素晴らしく、高齢者ダンスアイドルグループとして、幅広い世代に対し、“元気と感動”“健康づくり”を発信しています。平成28年度からは、地域にも活動を広げ、幅広い年代でダンスを通して体を動かす取り組みを展開しています。



【暑さ対策日本一～熱中症予防の推進～】

平成19年8月に多治見市は74年ぶりに国内最高気温を更新し、40.9℃を記録しました。現在は「暑さ対策日本一」を掲げ、熱中症予防レシピの作成や地域での啓発活動、大学との共同研究などにより、気温は高いが暮らしやすく、市民も来訪者も気持ちよく過ごせるまちを目指しています。